

令和6年度 国立若狭湾青少年自然の家 教育事業
 「地域探究プログラム オリエンテーション合宿」(R6.8.7(水)～8.9(金))

◆目的

- ・探究の過程において課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解する。
- ・2泊3日で「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ・表現」の探究のプロセスを学ぶ。

◆参加実績

- ・高校1年生 女子 3名 (福井県2、大阪府1)
- ・高校3年生 女子 2名 (京都府1、神奈川県1)
- 合計 5名

◆日程

8月7日(水)	8月8日(木)	8月9日(金)
集合場所：パレア若狭		
1. ガイダンス	5. 講義・演習② 「課題解決の基礎」	9. 講義・演習④ 「行動計画の基礎」
2. 「地域づくりの実践」 赤尾農園 須藤 竜乃介 氏	6. フィールドワーク② 「地域課題の研究」 ・阿納体験民宿組合 ・赤尾農園、若狭町梅加工体験施設	10. 発表②「まとめ・表現」 ・行動計画の発表
3. フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」 ・阿納体験民宿組合 ・道の駅「三方五湖」、赤尾農園	7. 演習③「地域課題の探究」 ・整理・分析	11. 実践活動のためのガイダンス
4. 講義・演習①「地域理解」 ・課題設定	8. 発表①「表現方法の基礎」 ・フィールドワーク先の課題解決	解散場所：パレア若狭

オリエンテーション合宿 (個別参加型) 参加募集チラシ

地域探究プログラム

オリエンテーション合宿に参加して「探究」を学ぼう!

期日：8月7日(水)～8月9日(金)
 会場：国立若狭湾青少年自然の家及び協力施設
 対象：高校1年生～3年生 15名程度
 参加費：5,960円

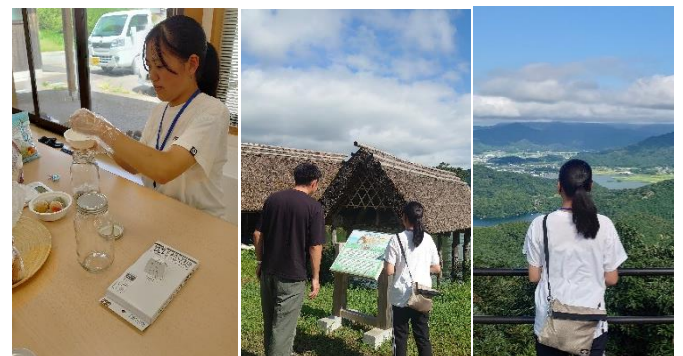
阿納体験民宿組合 赤尾農園

国立青少年教育振興機構本部 若狭湾青少年自然の家



フィールドワーク 阿納体験民宿組合

1日目： ・阿納の現状と課題 ・教育旅行プログラム体験 (シーカヤック、魚捌き 等)	2日目： ・民宿の見学 ・阿納地域の取組と成果
---	-------------------------------



フィールドワーク 赤尾農園

1日目： ・赤尾農園の梅の木の見学 ・梅干しを干す体験 ・梅の現状とこれからの展望	2日目： ・若狭地域と梅の歴史 ・梅シロップづくり ・梅ドリンクの試飲
--	--

◆参加者の声（アンケートより）

オリエンテーション合宿で学べたことは

- ・地域づくりは「地元の人」はもちろん「移住してきた人」や「観光客」など様々な人にとっていい町だと思っ
てもらふ必要があるとわかった。そのために、伝統を守り続けたり祭りやイベントを開催したり地元の人が主
体となって町を守り続けなければいけないと思った。
- ・自分のやりたいことだけ相手に伝えても叶いにくいので、相手の気持ちも考えて双方にいいと思えるような企
画や商品づくりをする必要があるとわかった。

自分の地域に帰って探究してみたいことは

- ・村意識が根強いかつ、外部の受け入れを拒む人は、将来自分の村をどう作り上げていくのか、主体性のある人
との比較をしてみたい。
- ・観光協会や役場に具体的な問い合わせをし、探究している地域のこともっと知ることが必要。
- ・地元に住んでいる多くの人が「この町は何もない」と感じているので、まずは地元の人とその地域の魅力を
知る必要があると思った。
- ・具体的に「どのような人が、どのような視点で見た時の魅力なのか」を決めて探究する。

オリエンテーション合宿で感じたことは

- ・フィールドワークが充実していて探究はおもしろいと感じた。
- ・各地から集まったメンバーだったので様々なところで違いを共有する時間がとても楽しかった。
- ・大人（視察に来られている方や職員）の意見を聞きながら、探究を深めることができた。

「地域づくりの実践」の講話について

- ・日々探究活動をしながらか働き、行動力や探究力がある大人を初めてみた。
- ・参加者同士で自分の地域について交流しあうことで、「自分の地域の魅力」や「他の地域の取組」など新たに知
ることがたくさんあった。
- ・「地域づくりの必要性について」の話より、考えを知ると同時に私にとっての「地域づくりは何だろう」と考
えることができた。

フィールドワークの内容について

- ・シーカヤックができたことが貴重な経験だった。
- ・地域や村のつながりの「良さ」「課題」「悪いところ」などたくさん知ることができた。
- ・リノベーションされた民宿と昔ながらの民宿が実際に見ることができてよかった。
- ・道の駅の売り場でどのような商品があるのかどんな売り場なのかを知ることができた。
- ・農園では畑の規模の大きさに驚き、SNSでは伝えきれない部分もありことを感じた。
- ・梅干しの試食やつくる体験・見学ではどのような工程を経て消費者の元に来ているかを知った。
- ・地元の高校生が箸や鯖缶を作るみたいに、梅に関してもやってみれば梅の魅力を発信すると同時に地域づく
りにつながると思った。

「探究オリエンテーション合宿」全般の流れや内容について

- ・アイスブレイクでみんなのことを知れたので、休憩時間に何気ない話げできた。
- ・忙しく、頭のフル回転で充実しててあつという間だった。スポーツレクなど体を動かせるような時間があつ
てもよかった。
- ・意見交流の時間はみんなて課題について考え、新たな提案や疑問を出し合うことができた。
- ・1日目の振り返りを確認し、2日目のフィールドワーク先に行くことでより深く地域課題について話し合うこ
とができた。
- ・発表①では「こうしたらもっとよくなる」ことに気付くことができた。
- ・課題解決時に多くの人（視察の方）がおられたことで、それぞれの分野に関連した考えや意見を聞くことが
でき、新たな知識や自分にはない考えを知ることができた。

◆成果

- ・集合と解散の場所を駅周辺の施設にすることで公共交通機関を利用して事業への参加をすることができた。
- ・「地域づくりの実践」の講師として昨年度まで本施設の職員だった方に依頼をした。参加者の地域のよさや地域の課題を考える時間を設定していただくことで、若狭地域での探究活動や、3日目の行動計画でテーマを考えるきっかけになった。
- ・今年度は本部が作成した全国の施設の開催日程を掲載したチラシにより地域外からの参加者が2名いた。そのことで地域の違いを知ったり、課題の違いに気付いたり講義・演習以外の場所でそれぞれの地域の違いや考えを深めることができた。
- ・グループワークの時間を多く設定したことで、考えを深めたり新たなアイデアを伝えあったりと様々な人の意見に触れることができた。
- ・フィールドワーク先では様々な視点からの課題や対応策、失敗談など聞かせていただき、フィールドワーク先の課題解決に向けた思考を深めることができた。
- ・今回は若狭地域の観光協会や産業振興課の方々が受入現場視察のために来られていた。視察の方々も訪問先や参加者と積極的に関わっていただき、発表に対する意見や感想も伝えていただいたことで、現状や課題をより深く掘り下げることができた。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・今回は遠方からの参加者がいたため、公共交通機関だけで移動できたのは高校生にとってはよかった。
- 集合・解散場所は次年度も駅周辺で「自分で来ることができる」ことを大切にするとよい。
- ・「地域づくりの実践」は今年度同様に、「若狭地域」に魅力を感じて、地域を活性化させようとして取り組んでおられる人がよい。
 - ・フィールドワーク先との事前打ち合わせで参加者に伝えてもらうテーマを少し絞った方が各自のテーマを考えやすい。
- 講義・演習③よりももう少し早い段階（1日目の夜か2日目の朝ぐらい）に各自のテーマを設定し、それに対する質問やアイデアを考えたほうが考えを深めやすいのではないかな。
- ・ファシリテーター（職員）が明確な着地点をもって講義・演習を進める必要があり、それを複数の職員で共通確認しながら進めるとよい（例：指導略案等で方向性を確認する等）。
 - ・講義・演習、フィールドワーク、ガイダンスなど2泊3日で11コマあり、考える時間も多く大変であった。
- 現状は、2日間を通して探究の学び方を体験しているが、全体のバランスを見ながら各講義・演習の重み付けをしていくとよい。
- ・学年により探究活動の習熟度や取り組み方にどうしても差が出てしまう。探究活動の理解度を踏まえた運営が求められた。
- 事前課題のフォーマットを作ることでスムーズに3日目の活動に取り組めるようにする。
- ・2箇所の施設でフィールドワークを実施していたが、参加人数が6人程度であれば1か所で実施し、職員についても2名同行できるとよい。
 - ・職員の対応を不満を感じる参加者がいた。
- 複数の職員や同性の職員で対応することで、より参加者の思いを把握する環境を整える。



講義・演習①



講義・演習②



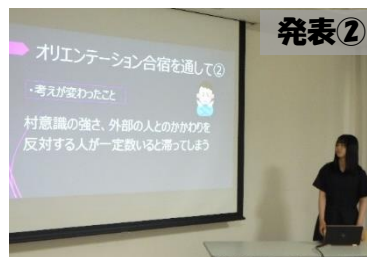
演習③整理・分析



発表①



講義・演習④



発表②



修了証